

勝林壽報

北陸でのご苦労

京都・近江の、とくに商人・庶民と同
座して正しい仏法を打ち立てようがん
ばつてくださる蓮如さまへ、比叡山のひ
とたちは、遮二無二弾圧を加えてまい
ります。比叡の末寺になれ、天台の教え
に従えと。

蓮如さまといっしょに念佛申していた
武器などもたない人々のいのちさえあぶ
なくなつてまいりました。

蓮如さまは、文明三年、京都をはなれ
、親鸞さまの昔からご縁のふかい北陸・
関東の地に教化伝道しようと決心なさい
ました。

りませんでした。
というのは、もともと北陸地方は親鸞様のお弟子たちがはやくからこの地に進出していて、各地に大寺を構え、各自子弟集団をつくり張り合っていましたから、外見お念佛はとても盛んでありました。
が蓮如さまは思われます。「はたして人が沢山あつまって威勢のいいのが念佛の繁盛であろうか」
蓮如さまは今度北陸では、これらあやまつたお念佛の頂き方と対決していかねばならなかつたのです。
第一には「坊主主義」です。おおきな寺をかまえ弟子を抱え込んで互いに張り合つてゐる。そこには弟子の獲得競争のみならず、お布施の額で往生をあがなう

風潮（ものとり信心）もでていきました。これが本当の宗教か。蓮如様はご文章をとおして厳しく問うていかれます。

第二には、一般庶民の感覚からはなれ、「学問沙汰」「学者ぶつた」ひとりよがりの念佛です。

例えは、わたし自身がすでにほとけじや、他をおがむ必要などあろうか（拝まず秘事）。天台宗でも本来ほとけとおしゃる。この真宗だって「あなたを救わねばわたしはほとけにはなりません」と誓った法藏菩薩さまが、願いかなつて十劫のむかしほとけとなられたのだから、理屈としては、わしらの往生はその十劫にもう決まつてしまつている。寝転んでいても昼夜していても往生は心配ない（十劫正覚秘事）。

如来さまのおはたらきを、今の、私のこの煩惱の身のうえに「もつたいのうござります」といただくのではなく、頭のなか学問理屈のうえでこねあげ悟りすましている人達を、鼻持ちならず戒め続けられた蓮如さまでありました。

また、「善知識だのみ」などといつて、この人に従つておれば成仏間違いなしとのカリスマ信仰もあつたし、密室のかでのあやしげな信仰授受（秘事法門）などとも、あれこれひろくたたかつて行かねばならない蓮如様でした。

その他、根強く行われている迷信俗信。そのうえ守護地頭などの権力闘争に便乗してわが地位を築こうとする内外の人達と深刻なせめぎあいをしなければならない蓮如さまは、北陸在住の間、まさに獅子奮迅、血みどろの奮闘の毎日であつたと思われます。

隠忍自重、極力争うことをさけながら、切々とした思いを、やさしいことばに切り替え、それらの人々を訓し導いてくづさつたのが「ご文章」とよばれる蓮如さまのお手紙でした。

春のお彼岸会

二二月二二〇日午後2時
テーマ「いのちを生きる」

近年急速に「いのち」が問題化してきました。老い・介護・尊厳死・遺伝子操作、また地球環境破壊等などです。だれも自分の問題として考えなければなりません。仏教（お念佛）の立場から話し合ってみたいと思います。お参りください。

出石組 布教大会

お彼岸まいりを兼ねて沢山お参りください。

三月のこよみ

- | | |
|-------|--------------------|
| 一日 | 坂本光隆氏宅法事 |
| 二日 | 組内△云
講師養成中央実習総括 |
| 三日 | 四日 同じ |
| 四日 | 五日 清水儀一氏宅法事 |
| 五日 | 六日 大阪正蓮寺団体参詣 |
| 六日 | 九日 西宗寺結婚式 |
| 七日 | 十日 玉日△云定例法座 |
| 八日 | 十一日 教区連研のための研究会 |
| 九日 | 十三日 津井山照満寺蓮如忌法座 |
| 十日 | 十四日 同じ |
| 十一日 | 十五日 大石正和氏宅法事 |
| 十二日 | 十六日 坂本貢氏宅法事 |
| 十三日 | 十七日 清掃奉仕(午前) |
| 十四日 | 十八日 十六夜会定例法座 |
| 十五日 | 十九日 ボランティアあすなろ |
| 十六日 | 二十日 彼岸会法要 |
| 十七日 | 二十一日 お達夜 |
| 十八日 | 二十二日 合同役員△云 |
| 十九日 | 二十三日 歴代住職坊守法事 |
| 二十日 | 二十四日 ボランティアあすなろ |
| 二十一日 | 二十五日 京阪神地区報恩講 |
| 二十二日 | 二十六日 同じ |
| 二十三日 | 二七八日 みのりを聞く会 |
| 二十四日 | 二九日 寺報編集 |
| 二十五日 | 三十日 同じ |
| 二十六日 | 二七八日 同じ |
| 二十七日 | 二九日 永井正人氏宅法事 |
| 二十八日 | 三十日 中島武志氏宅法事 |
| 二九日 | 二九日 大月忠男氏宅法事 |
| 三十日 | 三十日 法輪会春季研修会(専福寺) |
| 組同朋講座 | |

曾孫（むこまご）の誕生

「今度はどうもホントらしいの」という
三女の娘からの電話があった。その日から
、わたししなんだか昼も夜も胸ワクワクで
、居ても立つてもいられないっていう感

夫を十年も前に失っていますし、どうより一人のお世話しなきゃあなりません。それに第一自分が産むのではないのです。落ち着け、向こうの親御さんに任せとけと自分にいいきかせながらそれでもワクワクそわそわ、とにかく娘の所に行つてやれる時をつくるため、はや七ヶ月もたつてしましました。

昨日やつとこちらにこれたんです。(さいわい父母ともこの冬調子がよかつたもんですから)

家をでるとき、おじいちゃん（といつて
も齢はまだ七十五歳でピンピン。もと中
学校の校長をしていました）。そのおじい
ちゃんが、みごもった孫娘にいつて聞か
せるのか、それともオタオタと混乱して
いる私にいつてくれたことなのかしれま
せんが、とにかく正座して、いともおじそ
かに言つてくださつたことばです。

「ひとのいのち受けがたし」ということ
がある。
なみたいていのことではないのだ。
このところは、赤ん坊がこの世に生まれ
出た日から齢をかぞえるが、あれはいの
ちをなんと思つてゐるのか。
東洋ではむかしから受胎したそのとき
からいのちを大切にはぐくんできた。だ
から数え年で人のいのちを数えるのじゃ
父と母との命をもつてあたらしいい
のちとして母の胎内に宿つたときがこの
子の誕生や。

も、といふれば父と母をとおして、何百万
何千万、無量の細胞遺伝子を受け継いで
いま母の胎内にやどったんや。

そやから、無量のいのちが実を結んだ
のやから、子供のいのちは貴いのや。
どうぞ、ほんとに拝みながらおなかの
なかの命、育てにやもつたいたない。

五体満足やろか、何か障害あれへんか
と。それがわかつたら墮胎して赤ちゃん
堕ろす人があるそうやが、親の見栄都合
だけでそんなことするのは尊属殺人や。
何千万無量無辺の細胞遺伝子の組み合
わせで、個々別々一人一人違う個性にう
まれてくるのやから、そやからまた貴い
のや。

いただいたいのちのまま、うまれてき
たままのいのちを大事に大事に育ててや

それで、神や仏なんて見向きもしない。
。親の愛、人の情なんかチャンチャラお
かしくて誰も信用しなくなつたんです。

点作つて、競争あたりたて。
それみいナ、その競争のなかで勝ち進
んだエリートちゅうやつらが、露骨な弱
いもんいじめやつとるやないか。

こんな情けない世の中やから、わしは
お念佛いただいとのや。
わしみたいなアホには、如来さんのお
姿みえへん。

そやからこそ如来さん呼んでくれはる
のや。南無阿弥陀仏と。

如来さんの世界には差別あらへん。あ
つてもみんなおんなんじに扱うてくれるは
る。

無量のいのちと不可思議な光の如来を
よりどころに輝いて生きるのだぞと。
それが南無阿弥陀仏の浄土真宗やと、
わたしは聞かせていただいています。

進捗狀況報告



山門・鐘樓改築計画

二月に入りましてから仏壯・仏婦それぞれに総会・評議員会が開かれました。その機会にご住職から代議員会決議のこの計画について説明していただきました。それらを受けて二月十五日総代会を開き、設計図・用材の検討および見積もりの細部まで慎重綿密に審査した上で業者（徳網建設）と再度検討折衝し、その結果、施工の日取り、支払い手順など申し合わせをいたしました。

七月下旬前坊守さまのご法事までに完成するよう要請いたしました。大工工事は勝林寺門徒の兼井征夫さん。（門徒総代会）

偏差値とか到達度やとか、勝手に平均

勝手に平均点みたいなもん決めて、こ
こから下の奴や足らん奴は、異常や、特
殊や、邪魔や、おらんでもええ奴や言う
て、多數の者だけが生きる権利ふりまわ
して。